

それでも 辺野古新基地はつぐれない ～国策と闘う土木技術者～

- 講師 奥間 政則 氏 (沖縄在住 1級土木施工管理技士)
- 日時 2018年3月18日(日)
開場: 18時、講演と質疑応答: 18時30分～21時30分
会場 研修交流センター(浜松市楽器博物館5階)501号研修室
- 入場無料 (沖縄へのカンパ歓迎)

2月4日、辺野古新基地建設予定地のある名護市長選挙に於いて、基地建設推進容認の市長が誕生し、これで、一気に工事が加速されるかのように見られています。

しかし、新基地建設は、現政権による沖縄差別、抑圧という許しがたい不条理な側面と共に、技術的に深刻な問題を持った国家の一大欺瞞プロジェクトです。

政府は隠していますが、この工事には深刻な土木技術上の問題があり、将来に非常に大きな危険をはらんでいます。この度、この現実をいち早く見抜いていた沖縄在住の土木技術者である奥間政則氏より、その実体を講演していただきます。

真の問題はどこにあるのか、この講演で学び、ぜひ現実を知って下さい！



奥間政則氏のご紹介

2015年から高江の座り込みに参加することになり、ヘリパッドの建設について、技術的な視点で防衛局のずさんな工事を指摘してきました。

2016年から辺野古に関わるようになり、海洋土木工事の経験を活かして、当初から着目していた護岸構造の問題が地質学者の協力を得て活断層の問題へとつながり、理詰めでくる防衛局に対し辺野古基地建設断念へ向けて理詰めで闘っています。

- お問い合わせ: 小沢 明美 (浜松市憲法を守る会、Tel 053-425-5336)
水戸 潔 (日本友和会静岡支部、Tel 050-3401-0483)

